

10 実習－卒論研究学習

主体的に学習に取り組むため、一人一農場・区画を基本とし生産から販売まで一連の過程を実践するプロジェクトにより農業経営力を身につける学習を展開する。その成績を卒業論文としてまとめ、経営者感覚を磨く。

そのため、実習は季節性や作業時間に柔軟に対応し、必要な農作業については時間外や休日も対応するものとする。

(1) 実践学習体系 別表 1

(2) 実践学習内容 別表 2

ア 経営学科実習

1 年次は、学科毎に、ほ場、施設を活用しての基本技術の習得を重点とする。さらに卒業論文を進めるための調査手法を習得する。

2 年次は、卒業論文の取組を進めながら、栽培技術等の実践学習を深める。

イ 卒業論文研究

営農に必要な基礎的知識、技術の習得と自主的に学習に取り組むため、卒論課題設定－試験計画樹立－実践－評価の流れで、自ら設定した課題の調査研究を実施する。

1 年次

卒論課題設定	試験計画樹立
--------	--------

 我が家の営農の現状や地域農業の現状、技術動向を踏まえ、作成する。

2 年次

実	践	評	価
---	---	---	---

 調査記録等を整理しながら、計画的に調査を進め、職員の指導のもと、成績を解析、まとめをする。

(ア) 完成した論文は定められた期日までに所属学科長に提出する。

(イ) 評定は、次の基準により判定される。

ア) テーマに関連のある基本的な文献及び資料をそしゃくし、論文の整理において自分なりの論旨を展開できていること。

イ) 論文構成(視点、展開、結論)において創造的であること。

(ウ) 記述項目は次のとおり。

- 1 表紙 (卒業論文課題名、所属学科、氏名)
- 2 目次
- 3 はじめに (ねらい等)
- 4 材料と方法
- 5 試験結果 (図・表を含む)
- 6 考察
- 7 要約 (摘要)
- 8 資料

- (エ) 提出された卒業論文(原本)は、各学科で保管し、必要に応じて関係者に閲覧できるよう整理し、永年保管する。また、課題名一覧を別途作成し保管する。
- (オ) 後述の卒業論文発表会(全体)に向けて、2年次の12月に学科別卒業論文概要発表会を実施する。この発表会には、校長、副校長(農業経営部長)のいずれかが立ち会うように配慮し、発表要旨については卒業論文発表会に準じて作成する。
- (カ) 卒業論文発表会
- ア) 日 程：2年次の12月
 - イ) 発表時間：1人当たり発表10分、質疑応答5分、計15分
 - ウ) 発表会：各学科代表
 - エ) 発表方法：口述とし、資料提示にはプロジェクター、パソコン等を使用する。
 - オ) 発表要旨：A4判用紙の4枚程度(縦長、横書き、5枚を限度)とし、卒業論文記述項目の1、3～6の項目で整理し、印刷・配付する。
 - カ) 参 加：1学年、2学年の学生及び教務職員全員参加とする。
 - キ) 代表者選定：卒業論文発表者の中から次の代表者を審査・選定する。
 - 「東日本農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会」(3課題、1月中旬)
 - 「福島県農村青年会議プロジェクト発表」(2課題、2月上旬)
- (ク) 提出された論文は論文集としてまとめ、原文のまま印刷・作成し、提出者等に提出のあった年の3月に配付するとともに、学校に保管する。